

新潟の独特遺産である六斎市を通じた地域振興メニュー開発

NPO 新潟みなとクラブ

1. 研究の背景と目的

新潟県の信濃川・阿賀野川流域・日本海沿岸等に定期市(六斎市)が60か所以上存在する。特に水運・海運の港のあった在郷町や湊町に多数存在する。六斎市は近代まで全国に存在したが、現在では新潟県・秋田県・愛知県等一部地域だけで、多数存在するのは新潟県のみである。新潟県の六斎市には現在も多数の買い物客が訪れ、中には外国人の観光客もみられ、地域振興メニューとして有望と考えられる。

一方新潟県において、近年六斎市に関する全体的調査は実施されていない。出店者も高齢化し、大型商業施設の進出等のため、現在のうちに記録に残すことが急務である。

このため、新潟の独特遺産である六斎市について、今回県内の現状等の悉皆調査、全国の六斎市の分布調査を通して、新潟の六斎市の独特性を明らかにし、マップを作成するとともに、地域振興メニューとしての可能性を探るための内陸水運と関連付けた「六斎市ツアー(社会実験)」を企画・分析し、地域振興メニューを提案することを目的とするものである。

注)市には、毎日市、週市(曜日開催)、六斎市(月6回開催)、三斎市(月3回開催)、年市(毎年特定の日で開催)
六斎市とは、2, 7, 12, 17, 22, 27のように、2と7の付く日、月に6回に市が立つ定期市。中世より見られる。
今回の調査対象は、これら市から、毎日市、週市、年市を除いた定期市。

2. 研究内容

2-1. 研究の構成

令和3年度は初年度として、①全国の六斎市分布の文献等調査、秋田(横手盆地)の六斎市の現地調査を実施し、新潟の六斎市の独特性を分析。②新潟県内の六斎市の現状等の悉皆調査(調査票・ヒアリング)。¹⁾²⁾ ③新潟市民に対し六斎市ツアー(社会実験)を実施(小須戸・亀田)。³⁾⁴⁾ ④地域振興への活用の考察を行った。³⁾⁴⁾

令和4年度は、令和3年度の結果を受けて以下の項目を実施した。(太字 令和4年度新規)

- ①全国の六斎市のさらなる調査。文献等調査や現地調査。三河地域・四日市地域・新潟地域
- ②現地集合方式による新潟市民対象の有料六斎市ツアー(社会実験)の実施。新津対象。
- ③県外住民(関東地域)に対する有料六斎市ツアー(社会実験)の実施。葛塚対象。
- ④市内、県外者に対するツアー結果からの地域振興メニューの検討。
- ⑤六斎市マップ(全国分布、新潟県内分布)素案の作成。

2-2. 六斎市調査(全国)

(1)必要性

地域に特定した調査は時々なされているが、近年は全国的な調査は)により web や文献等から全国的調査がなされている程度である。新潟県とともに定期市が残っている秋田県・愛知県に関する調査が少ない。これら地域の現状を調査することにより、新潟の六斎市等定期市の全国的に見た独特性を明らかにする必要がある。

(2)実施内容

昨年度の秋田県に引き続き、今年度は愛知県三河地区、三重県北勢地域の調査を実施した。さらに、フランスパリのマルシェを調査した。

- ①現地調査(三河地区) 実施日 豊橋 令和4年6月9日(木)、岡崎 令和4年11月12日(土)、半田 令和4年11月13日(日)



写真1 岡崎六斎市の様子

六斎市等定期市が残っている豊橋、岡崎、半田の各々、四九市、二九市、三八市の現地調査及びの愛知大学教授のヒアリングを実施した。(写真1)

②現地調査(四日市地区) 実施日 令和4年9月2日(金)

四日市市の六斎市ではないが十二歳市の定期市である三滝川慈善橋市場の現地調査及び四日市市役所のヒアリングを実施した。(写真2)

③現地調査(フランス、パリ市) 実施日令和4年8月6日(土)、8月7日(日)

別件でパリに行く機会があったので、パリのマルシェ2カ所について簡単な調査した。(写真3,4)



写真2 四日市定期市の様子



写真3 パリのマルシェの様子



写真4 パリマルシェの様子

(3)結果と課題

全国調査でわかったことは以下の通りである。新潟における定期市の全国的に見た独特性が確認できた。

①三河地域の岡崎、豊橋及び四日市等中部地域の六斎市等定期市は、近代や戦後など新しい市が多い。

②出店の方法は、周辺の定期市を巡回する新潟と同様の出店者が多い。また、農家の出店者が新潟に比較し少ない。

③通りの整備や朝市の看板が立つなど環境整備もなされている市もあるが、出店者の減少は著しく、新潟地域の定期市より衰退が進んでいると推測される。

④出店者の状況を見ると、野菜、鮮魚等もあるが、だんごや飲み屋など屋台式な出店や卵・お茶など地域的な出店も見られた。

⑤パリのマルシェについては、曜日ごとの開催で、週2回、月8回の開催である。野菜・果物。さらに肉・乳製品が多い。通りもしくは公園で開催されている。出店者も多く日本より賑わいがある。

2-3. 六斎市調査(新潟)

(1)必要性

六斎市等定期市は新潟県内に多数存在するが、近年新潟県内の定期市の全体的調査はなされていない。さらに出店者も高齢化し、大型商業施設の進出等のため、出店者や購買客も減少し、現在のうちに記録に残すことが急務である。昨年度の調査結果を基に六斎市の実態や新たな動きの現地調査、市長等首長の意向等をヒアリングする必要がある。

(2)実施内容

実施項目と内容は以下の通りである。(写真5~7)

①新潟県現地調査(加茂、見附、新津、水原、吉田、中条、三条)

令和3年12月9日加茂六斎市、令和4年3月8日見附六斎市、4月26日新津六斎市、6月14日水原六斎市、7月26日、10月16日吉田六斎市、9月13日中条六斎市、10月2日三条六斎市を現地調査した。6月13日には三条市役所ヒアリングを実施した。

②新潟・見附市長との意見交換

令和4年3月11日見附市長を表敬訪問、令和4年11月16日



写真5 加茂六斎市の様子

新潟市長（中央区長、南区長同席）と意見交換を実施した。

(3) 結果と課題

調査結果として以下のことがわかった。

- ①各六斎市も現在も行われているが、出店者の減少が新潟の場合も著しい。
- ②駅前の観光案内板において六斎市の案内がないものがほとんど。
- ③マルシェや街歩きなど新しい取り組みの六斎市も見られる。(三条、吉田、中条)
- ④大学生の協力や出店のある六斎市も見られる。(三条、吉田、中条)
- ⑤首長との意見交換の結果六斎市に関心が高いこともわかった。



写真6 吉田六斎市の様子



写真7 三条六斎市の様子

2-4. 現地集合方式による新潟市民対象の有料六斎市ツアー(社会実験)の実施(新津)

(1) 必要性

今回の実証実験は以下の項目を確認するとともに、今年度は、昨年度の結果から、新たに⑤⑥の2項目を確認するため実施した。

- ①六斎市・水運と関係した町の発展に関して新潟市民に認識されているかの確認。
- ②六斎市ツアーが魅力的かの確認
- ③水運との関係も考慮した町歩きとセットになった六斎市ツアーが可能かの確認。
- ④六斎市ツアーが地域振興のメニューとなるかの確認。
- ⑤昼食付き・有料の六斎市ツアーが受け入れられるか。
- ⑥現地集合の六斎市ツアーが受け入れられるか。

(2) 実施内容(表1, 写真8)

時期としては、旬の野菜・果物が出回る秋、六斎市開催と土曜もしくは日曜が重なる日時設定。昨年より1ヶ月早くした。行程は表1の通り。料金は2,200円。「市報にいがた」で20名募集したが、参加者は11名だった。(1)の6項目に関する項目を主にアンケートを実施した。

表1 新津六斎市ツアー行程表

| | |
|--------------|--------------------|
| 新津六斎市モニターツアー | 2022.10.1 土曜日 |
| 9:00 | 新津駅集合 |
| 9:10 | 六斎市見学 |
| 9:50 | アキハ観光案内所で荷物預かり |
| 10:00 | 町歩き 3グループ |
| 12:30 | 昼食 割烹拵形 |
| 13:15 | 御菓子司 羽生 土産受け取り |
| 13:30 | アキハ観光案内所で荷物受け取り・解散 |

(3) 結果と課題

参加者へのアンケート調査結果からわかった結果と課題は以下の通り。

(六斎市ツアー)

- ①参加者にはツアーは好評だった。昼食付き有料は好評。これからもこの方式がよいと考えられる。来年度も実施し、昼食を加え有料としたい。

(六斎市に関して)

- ①「六斎市自体知らない」及び「新潟が全国で最も六斎市が多いことを知らない」人が半数程度だった。
- ②新潟市民でも知らない人が多くPR、六斎市ツアーは必要である。

(地域振興に関して)

- ①参加者は「六斎市は地域振興に役立つ」と考えた。
- ②PRと「街歩きとの連携」「店舗を増やす」が不可欠。

(課題)

①ツアーの募集方法(有料の説明を明確にする)



写真 8 六斎市ツアーの様子(新津)

2-5. 県外住民(関東地域)に対する有料六斎市ツアー(社会実験)の実施。葛塚対象

(1)必要性

今回の実証実験の必要性は以下の項目である。①～④については昨年度と似た目的であるが、⑤については、昨年の六斎市ツアー参加者のアンケート結果から今年度改良した内容である。さらに、大きく違うことは、①②が県外住民(関東地域)に対してどうなのかということである。

- ①六斎市ツアーが県外住民(関東地域)に対して魅力的かの確認
- ②六斎市・水運と関係した町の発展に関して県外住民(関東地域)に対して魅力的かの確認。
- ③水運との関係も考慮した町歩きとセットになった六斎市ツアーが可能かの確認。
- ④六斎市ツアーが地域振興のメニューとなるかの確認。
- ⑤昼食付き・有料の六斎市ツアーが受け入れられるか。

表 2 葛塚六斎市ツアー行程表

| | |
|--------------|----------------|
| 葛塚六斎市モニターツアー | 2022.10.15 土曜日 |
| 8:30 | 新潟東映ホテル出発 |
| 9:00 | 葛塚六斎市見学 |
| 10:00 | 葛塚街歩き |
| 11:40 | DHC 酒蔵 2グループ |
| 12:30 | 昼食 割烹大倉屋 |
| 13:35 | 福島潟 |
| 15:20 | 新潟駅解散 |

(2)実施内容 (表2, 図1, 写真9)

時期としては、旬の野菜・果物が出回る秋、六斎市開催と土曜もしくは日曜が重なる日時設定。昨年より1ヶ月早くした。行程は表2の通り。料金は全日宿泊込みで6,000円とした。新潟までの交通費参加者負担。

図1に示す募集チラシを作成した。旅行会社が作成するチラシと同様旅行条件等が掲載されている。このチラシを新潟県・新潟市関係公的機関等にPRをお願い、さらに新潟みなとクラブ理事吉田の個人的つながりで参加者の募集を行った。

20名募集したが、応募は15名、参加者は13名だった。(1)の5項目に関する項目を主にアンケートを実施した。

(3)結果と課題

参加者へのアンケート調査結果からわかった結果と課題は以下の通り。

(六斎市ツアー)

①参加者にはツアーは好評だった。昼食付き有料は好評。これからもこの方式がよいと考えられる。2万～3万円までツアー料金として適正価格。



図1 募集チラシ



写真9 六斎市ツアーの様子(葛塚)

(六斎市に関して)

①首都圏では全く知名度がないことがわかった。PR、六斎市ツアーは必要。

(地域振興に関して)

①参加者は「六斎市は地域振興に役立つ」と考えた。②PRと「街歩きとの連携」が不可欠。

(課題)

①飲食できるテーブル。買った物を宅急便で送れるシステム。もし他県の人を観光に呼ぶなら民芸品、土産物の充実が必要。旅行者にとって珍しい食材にはレシピ

②対象を誰にした市とするかの検討。全てか若者か等。地元対象の六斎市か、観光の六斎市か。地元としても、本当の地元なのか、県民を対象としたものなのか。

③関東地域については、募集・広報は公的機関とともに、広く募集するため、在京の旅行会社によるツアー企画が必要となる。

2-6. 地域振興メニューの検討

上記の検討結果、地域振興メニューの検討の流れを図2の通り提案する。特に、六斎市の性格付けをしっかりと決めることが必要である。

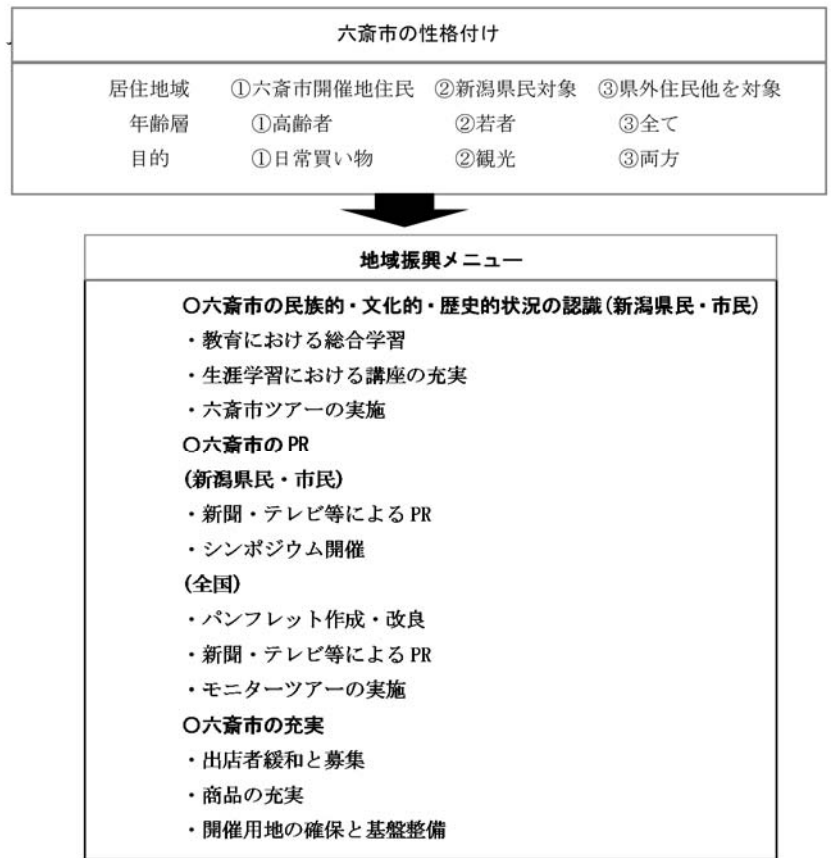


図2 地域振興メニュー検討の流れ

3. 今後の活動・展望

今回の調査結果は2冊の報告書⁵⁾にまとめたので詳細は参照されたい。

来年度以降の活動として以下に取り組み、定期市(六斎市)を新潟県民全体の資産・文化財、地域振興メニューとしたい。

- ・六斎市に関係する大学生との連携。
- ・六斎市ツアーの来年度の実施。
- ・全国、新潟の定期市パンフ作成。

4. おわりに

六斎市は新潟では至極当然のように行われているが、知らない市民が非常に多い。今年度もこのような機会をいただき

て、六斎市全国調査と六斎市ツアーを実施した。特に今回は、関東の住民向け六斎市ツアーを実施した。広報・募集の難しさ、買い物荷物の配送法、六斎市の性格付けなど新たな課題が浮かび上がった。これらに対応しつつこれからも六斎市に関する活動を進めていきたい。

なお、この調査は(一社)北陸地域づくり協会の「北陸地域の活性化」に関する研究助成を受けています。

(2023年3月作成)

参考文献

- 1) 吉田秀樹(2022): 新潟地域の独特遺産である定期市(六斎市)の現状調査と将来に関する一考察: 令和4年度土木学会全国大会
- 2) 新潟みなとクラブ(2022): 六斎市調査(新潟)調査票による現況調査報告書:新潟みなとクラブ
- 3) 吉田秀樹(2022): 新潟の独特遺産である六斎市を通じた地域振興メニュー開発~六斎市の現況調査と六斎市ツアー実証実験~: 日本沿岸域会議 R4 研究討論会
- 4) 新潟みなとクラブ(2022): 新潟の独特遺産である六斎市を通じた地域振興メニューの開発:新潟みなとクラブ
- 5) 新潟みなとクラブ(2023): 新潟の独特遺産である六斎市を通じた地域振興メニューの開発(II):新潟みなとクラブ